

湧別に眠る地下資源②— 湧別川下流域と粘土—

歴史からわかる湧別の地下資源は砂利だけではなく、粘土もその一つです。砂利が多かった上湧別地区とは違い、湧別地区や北兵村三区などの地下には厚い粘土層が確認できます。古くは縄文～擦文文化の土器、大正時代からはレンガの材料となりました。

いろんな時代で使われた湧別の粘土

湧別川が上湧別地区のあちこちに砂利を運んだように、湧別地区には粘土を運び、北兵村三区からオホーツク海にかけてのほぼ全域で堆積しております(例：左写真)。縄文文化～擦文文化に欠かせない道具であった土器もこれら身近にある

北兵村の土層断面

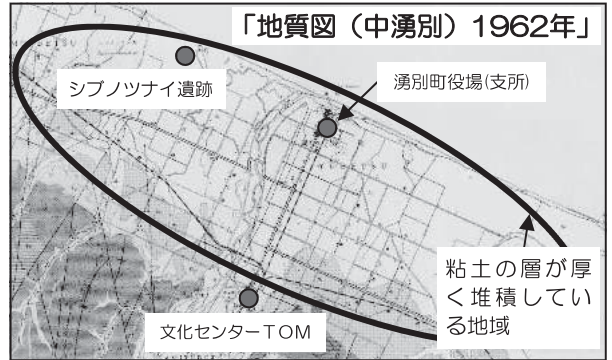


- ① 牧草部分
- ② フカフカの黒い土 (30cm程度)
- ③ 粘土の層 (下にまだ続きます)
(北兵村3区で撮影)

湧別川が上湧別地区のあちこちに砂利を運んだように、湧別地区には粘土を運び、北兵村三区からオホーツク海にかけてのほぼ全域で堆積しております(例：左写真)。縄文文化～擦文文化に欠かせない道具であった土器もこれら身近にある粘土から作られたと考えられます。川西に擦文文化の大集落(665軒も住居跡が！)

が作られた理由には、豊富な魚介類が採れたというだけでなく、粘土が豊富であったという点も重要な要素の一つとして見ることができます。

大昔の土器だけでなく、開拓後の大正～昭和30年代には粘土はレンガの材料として活用されました。今でもその名残としてレンガ造りの蔵やサイロが町のあちこちで見られます。



昔の人も地域の資源を上手に活用して生活していたんだね。

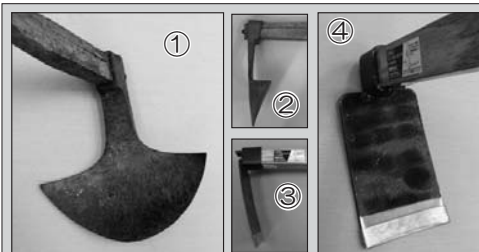


資料紹介

北海道で生まれた「島田鍬(しまだぐわ)」

今回紹介するのは北海道開拓のために作られた「島田鍬」。見た目が日本髪の「島田まげ(神前結婚式の時の新婦の髪型)」に似ていることからその名がつけました。普通の鍬と違い、刃先が丸く、内面に反った形が特徴です。

先がとがっているため地中深くに食い込み、笹の茎や木の根を切りながら土をおこすことができました。



- ① 正面から見た島田鍬
- ② 真横から見た島田鍬
- ③ 真横から見た普通の鍬
- ④ 正面から見た普通の鍬

今売られている鍬のように大量生産されたものでなく、一つ一つ地元の鍛冶屋によって作られたこの鍬は、二つと同じ形のないものです。湧別開拓の貴重な資料、ご家庭で使わなくなったものがあればひるさと館JRYにご寄贈ください。



郷土館からのお知らせ

今年度のボランティアガイドによる展示解説は9月で終わりとなります。団体見学等での展示解説をご希望の場合は、ふるさと館JRYまでお問合せください。開館日・開館時間はこれまでと変わりません

湧別町生涯学習情報「湧く湧く」2011年9月号 No. 21

編集発行…湧別町教育委員会 生涯学習課 〒099-6404 北海道紋別郡湧別町栄町112-1

<http://www.town.yubetsu.lg.jp/st/70kyouiku/index.html>

印刷…北湧印刷 平成23年9月26日発行

記事へのお問い合わせは

生涯学習課(社会教育係/スポーツ振興係/文化振興係/施設保全係)…01586-5-3132

湧別町図書館(湧別図書館…01586-5-3122/中湧別図書館…01586-2-3150)

ふるさと館JRY…01586-2-3000